

様式1 令和7年度 山梨県立ふじざくら支援学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

<p>学校目標・経営方針 (本校の学校教育目標)</p>	<p>①自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。 ②児童生徒一人一人の能力や個性を最大限に引き出し生かす。 ③確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む。</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 主体性・意欲:様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。 2 人間関係コミュニケーション:教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。 3 確かな学力:一人一人の状態に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。 4 豊かな心:自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくしなやかな心を育てる。 5 健やかな体・健康:体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。 6 危険回避能力・安全:災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。 7 勤労観・職業観:キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。 8 情報活用能力:タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。</p>

山梨県立ふじざくら支援学校校長 金丸 実奈江

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くてきている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価		年度末評価(1月30日現在)					
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体性・意欲 様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。	学校だけでなく保護者や地域、関係機関等と連携することで、児童生徒一人一人の主体的で意欲的に行動する力を育てる。	【学部】【教務】【相談支援】 ・学校評価アンケート ・各行事や体験活動後の事後学習 ・行事の目標の明確化と行事の編成等 ・各種お便り等の発行	・各教科・領域の学習の中で得た知識や気づいた事柄を、地域や家庭などにおける実際の活動の中で生かす機会を設けるように意識した。学習したことを生かして、主体的に活動する様子が多く見られるようになった。 ・各コースの教育課程の状況について、学部主事会や委員会でも共通理解を図り、より児童生徒に適した教育課程の編成に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援や環境設定を行うとともに、地域や家庭と連携しながら継続して取り組み、さらなる力の定着を図っていく。 ・必要に応じた教育課程の見直し等を行い、児童生徒の学びが深まるようにする。 	
2	人間関係・コミュニケーション 教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。	児童生徒一人一人の発達段階や生活年齢に応じて、社会参加に向けた人との関わり方や意思の表現方法などの基礎を養う。	【交流・渉外】【総務】【学部】 ・学校評価アンケート ・各行事等の児童生徒の意見 ・交流活動やPTA行事の実施	・児童生徒が安心して自己表現できる場を設定しながら、人や物と関わる経験を重ねた。心理士の専門家も活用し、アドバイスを日々の指導に生かすことができた。 ・児童生徒の社会参加に向け、保護者が交流できるようなPTA活動を設定した。 ・交流活動では、相手校とも丁寧に打合せを行ったことで、相互理解を深めることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階の実態や生活年齢に応じたねらいを見極めながら指導し、成功体験を積み重ねることで、より豊かな関わりを目指していく。関わる教員が共通理解のもと指導する。 ・交流活動においては、連携先と丁寧な打合せを行い、児童生徒の実態に応じた内容を検討していく。計画段階から児童生徒が主体となるよう進めている。 	
3	確かな学力 一人一人の状態に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。	校内研究や研修をさらに発展させ、相互の学び合いや先進校参観など新たな知見を積極的に取り入れることで教師の指導力向上を図るとともに、児童生徒一人一人に応じた基礎的・基本的な学力の定着や技術の習得を図る。	【研究・研修】【学部】 ・学校評価アンケート ・各種研修会や授業反省会の実施 ・校内研究の実施 ・外部機関の研修会等の紹介	・教職員が学部を超えて縦割りグループを編成し、児童生徒のつまずきや得意なこと、興味関心などについて付箋紙法で整理し、有効な手立てや教材教具について考察することで、授業づくりや授業改善につなげることができた。児童生徒の学力の定着につながった。 ・県内外の研修会に積極的に参加し実践報告会を実施したことで、全職員が情報を共有することができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階を踏まえたきめ細かい指導の充実を図り、振り返りを行いながらさらなる学力の定着をすすめる。 ・教職員が専門性を向上させると共に、年間を通じて教職員自身の興味関心に基づく主体的な学びができるような校内研究をすすめている。 	
4	豊かな心 自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくしなやかな心を育てる。	学校行事や児童生徒会活動等を通して児童生徒の自己肯定感を育むとともに、道徳に関する全体計画やいじめ防止基本方針に則った人権教育を通して、互いに認め合ったり挑戦したり努力したりする気持ちを育む。	【生徒指導】【学部】【管理職】 ・学校評価アンケート ・いじめアンケート ・児童生徒会活動の実施と振り返り ・自己観察書への記載 ・学校生活全体にかかわる道徳教育、人権教育 ・体験的な活動	・教職員一人一人がいじめ防止の意識をもって取り組むことで、校内でのいじめの認知はなかった。 ・児童生徒会活動では、総会で意見が多かったカラオケ大会を実施することができ、発表したり企画運営したりする中で自己肯定感を高めることができた。 ・季節の自然に触れる活動や校外学習、地域の方々との交流等を通して、興味や関心を広げることができた。 ・普段の学習活動や行事等では、児童生徒同士のかかわりを大切にしながら活動を進めることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に向けて、日頃から児童生徒への適切な指導を行い、良好な人間関係を築けるよう指導や支援に努める。 ・自己選択や自己決定の場面を設定し、達成感が味わえる児童生徒会活動になるよう、児童生徒や教員の意見を取り入れた活動に取り組んでいく。 ・普段の授業や日常生活の指導の中で、道徳教育の全体計画に基づいた人権教育、道徳教育を実施する。 	
5	健やかな体・健康 体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。	児童生徒の発達段階に応じた体力や運動機能の維持向上、保健教育や食育等の推進を図る。	【保健】【体育】 ・学校評価アンケート ・各種マニュアルの逐次改訂 ・救急体制に備えた訓練や研修会の実施 ・Fujizakura Fun Sportsや夏季陸上等の実施	・「水陸上練習」から「FanSports」に名称変更し、多様な種目や動きを取り入れることが可能となり、生徒の運動能力の向上が見られた。 ・給食通園における食育の推進や保健だよりの配布など、児童生徒にわかりやすい伝え方を工夫することで、児童生徒の健康への意識を高めることができた。 ・教職員に対しては、救急体制マニュアルの改訂と研修会の実施など、健康に対する取り組みを周知することができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「FanSports」における多様な運動機会の提供と、教職員の専門性を生かした指導体制の構築を行う。 ・児童生徒が自らの健康に興味関心をもてるような保健教育、食育の推進を目指す。 ・様々な事象を想定した緊急時の対応を職員に周知していく。 	
6	危険回避能力・安全 災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。	児童生徒の交通安全等の啓発や防災教育の充実、地域との連携も見据えた実践的な訓練の実施等を通して安全に生活する力を育む。	【防災・環境】【生徒指導】 ・学校評価アンケート ・ヒヤリハット事例の集積 ・校内安全点検、ハザードマップを活用した確認 ・ヘルメットの日、各種訓練の実施 ・交通安全等の啓発指導(含 自転車、バス、自主通学)	・通学トラブルなどで通学路を変更した生徒がいたが、担任のハットロールでは、自主通学生が安全に通学できていることが確認できた。 ・予告なしの訓練を含む3回の避難訓練を全て実施し、それぞれの訓練の反省から実際の場面を想定した改善点等を確認することができた。 ・富士山警察署と連携し、不審者の侵入に備えた不審者対応訓練・講習会を行うことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主通学生に向けて、通学のルールや交通マナーについてを周知し、自転車の交通反則通告制度の導入に伴う安全な自転車の利用方法などについても交通安全集会で確認していく。 ・より実践的な避難訓練を実施し、課題点を挙げることで、緊急時に迅速な対応をすることができるようになる。 	
7	勤労観・職業観 キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。	児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る。	【進路】 ・学校評価アンケート ・キャリアパスポートの活用 ・教育相談等 ・各学部対象の進路説明会の実施 ・実習先からの学校に対する意見等	・キャリアパスポートの活用について、年度初めに職員会議を通して周知し保護者には進路だよりを通してお知らせができた。 ・全校保護者対象に外部講師を招き進路学習会を実施した。好評であったが参加者も少なく、保護者が知りた情報も幅広いため、今後は情報発信の方法を検討し、進路だよりの充実を図っていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の基本的な考え方や取り組み方を教職員、保護者に周知できるように各学部主事、教務と一緒に取り組んでいく。 ・進路学習会のもち方を検討し、保護者のニーズに応じて、必要な情報は進路だよりで発信していく。高等部保護者には、状況に応じた進路学習会を計画していく。 	
8	情報活用能力 タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。	児童生徒がICT機器に触れる機会を促進し、生活の中で活用する能力を育む。	【情報・教養】【管理職】 ・学校評価アンケート ・ICT活用能力実態チェックシート ・教職員の一人一人実践の提出 ・自己観察書への記載	・児童生徒がより主体的にICTを活用できるよう、日常生活の中でiPadを活用している事例を挙げ保護者と共有することで、iPadの持ち帰りを推進していく。 ・教職員のICT活用能力の向上に向け、一人一人実践の内容や成果を簡潔に共有できる仕組みを整えていきたい。 ・ICT支援員について、教職員や児童生徒に有益な活用方法をさらに検討していきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がより主体的にICTを活用できるよう、日常生活の中でiPadを活用している事例を挙げ保護者と共有することで、iPadの持ち帰りを推進していく。 ・教職員のICT活用能力の向上に向け、一人一人実践の内容や成果を簡潔に共有できる仕組みを整えていきたい。 ・ICT支援員について、教職員や児童生徒に有益な活用方法をさらに検討していきたい。 	

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月10日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階や学部の系統性を踏まえた実践により、行動面等での成長が確認されているので、今後も継続していただきたい。 ・個別の指導計画新様式の移行に向け、先生方の負担を考慮しつつ各書式の調整が進められており、適切な目標設定や授業改善に繋げ、次年度以降もより良い教育活動が進められることを期待する。 ・授業や行事の参観を通して、どの学部も児童生徒の主体性と意欲を意識して活動していると感じた。 ・「できた」「認められた」等の積み重ねは、自信となり主体性と意欲を大幅に向上させていると思う。 ・地域や家庭の力を生かして子供の興味・関心を高める自分事として取り組む指導が有効に働いたと感じた。 ・安心感のある環境のもと、発達段階に応じて自己決定・選択の経験が重ねられてきたことが、学びの深まりにつながっていると感じた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部は学校間交流が年に1回になったことは残念である。交流及び共同学習は、直接交流を行うことでお互いの存在を知り、相手を思いやり尊重する気持ちを育てるために必要なものであることを相手校と共有し、今後の活動を検討していただきたい。 ・交流学習が、相互理解を深める有意義な活動であったことが、各学部のお便りからうかがえます。 ・自立を目指すにあたり、「人間関係・コミュニケーション」はとても大事な能力の1つである。生活年齢に応じた場やねらいの設定、安心して自己表現できる環境設定等の細やかな計画・支援により児童生徒は成功体験を積み重ねることができていると思う。小学部一中学部一高等部のステップアップされた体制により児童生徒の学びが深まることと良い。 ・児童生徒の実態や発達段階との間にギャップを抱える子ども達がいるので、年齢による一律の指導ではなく、個々の発達特性等を踏まえた、きめ細やかな関わりが重要である。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、校内研究で児童生徒の「分かる」を実感できる授業づくりに取り組むことができたので、今後も校内研究を効果的に活用して、授業づくりや教材作製に取り組んでいただきたい。 ・研究・研修部を中心に、「具体的方策」に記載されていることを実践し、児童生徒の学力の定着に繋げることができ、また、県内外の研修会への参加を受け実践報告会を実施し、全職員が情報共有をしたことは良かったと思う。 ・多忙なか中、教師間で授業の振り返りや生徒の様子について情報共有し、分かる授業づくりに取り組んだことに敬意を表す。 ・発達段階を踏まえたきめ細やかな指導や、時間をかけて工夫された教材作りは、授業の参観時や廊下の掲示物等からも十分にうかがうことができた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、絶対値であり困難に立ち向かうパワーの源である。今後も学校生活全体を通して、児童生徒を認める、褒める、励ますことで温かな居心地の良い学校・学級づくりに取り組んでいただきたい。 ・いじめ防止については、今後も未然防止に向け児童生徒への適切な指導をお願いしたい。 ・行事や児童生徒会活動を通して、自己肯定感や達成感が実感できるような活動が進められることを期待します。 ・自己選択や自己決定、役割分担・協同、達成感等がある児童生徒が主体となる活動の取り組み、道徳、いじめ防止等とも計画的に、細やかに指導されていると思う。 ・自己決定・自己選択ができるよう児童生活活動を通して継続的に取り組んでいる点も、主体的な心の育ちを支える重要な試みだと感じた。 ・学校行事、児童生徒会行事のみならず、学校生活全体をステージとして育まれるべき項目と思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ハニックバックの作成や保健関係の研修会の内容見直しは必要な取り組みである。児童生徒の命にかかわることなので、今後も現状に応じた見直しに取り組んでほしい。 ・Fujizakura Fan Sportsというネーミングが良い。今後も先生方の専門性を活かした運動の機会を提供することにより、スポーツを楽しむ、健やかな身体づくりや運動能力の向上に繋げられると良いと思う。 ・救急体制マニュアルの改訂の取り組みは、実践に活かせる内容で良いと思う。 ・児童生徒が自分の健康に興味をもてるよう、保健教育や食育を工夫して取り組んでいる点は大変意義深く、心理的にも自己効力感や自己管理意識の育成につながると思う。今後は、さらに体験型活動や選択の機会を増やすことで、健康意識の定着や主体的な生活習慣づくりが一層促進されると思われる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・災害はいつ起こるか分からないので、災害時に迅速に対処できるように、今後も避難訓練に取り組んでほしい。 ・いざという時のために、どう行動するかシミュレーションしておくことが必要なので、保護者に情報を提供して作成を促したらどうか。 ・バスの運行について大きなトラブルなく実施できたことは良かった。 ・次年度はルート変更などが予定されているようだが、安全に運行できるよう関係者が連携し進めていただきたい。 ・自主通学の生徒についても、安全に通学できるよう、特に自転車の通学については取り組んでいただきたい。 ・避難訓練なども実施され、危険回避能力等の育成にも努めておられ、素晴らしいと思う。 ・全国的に被害が出たクマなどの獣に対する自身の安全確保について基本事項の指導が必要かもしれない。 ・学校内の避難訓練は毎年の積み重ねによりスムーズに執行行われているが実際の有事の際、各家庭との連携は中々見えてこないように感じる。 ・今後は、状況判断の点や役割分担の工夫でより実践力が高められるといいと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートは、児童生徒がその作成と振り返りを通して、自分自身について考えるためのものであることをしっかりと押さえて指導に当たってほしい。 ・高等部卒業後の進路については、保護者のニーズを把握しておくことが必要だと思う。その上で、ニーズに応じた進路情報を発信してほしい。 ・小学部の保護者のご意見を受け、将来の見通しや希望もてるような、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実を図っていただきたい。 ・保護者向けの進路学習会の内容、持ち方等の検討をお願いしたい。 ・学校からだけでなく保護者同士の繋がりからも得られる情報がたくさんあるので、そのような機会(交流や研修など)を意識して増やしていただけたらと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を達成するためのICT機器の活用、児童生徒の学校生活を豊かにするためのICT機器の活用であることを意識したい。 ・授業を参観させていただき、ICTの有効な活用により、児童生徒の授業への興味関心が高められているのを感じた。 ・児童生徒にとって有益となるよう、学習場面での活用や生活に根ざした内容での指導をお願いしたい。 ・授業実践で子供がICT機器に触れる、使いこなす様子が見られて嬉しかった。 ・日常生活の中でiPadを活用し、その事例を保護者と共有して持ち帰りを推進する取り組みはとても意義があると思う。一方で、児童生徒や家庭によって電子機器への興味や使用状況が異なるため、特に使いすぎなどの対応に苦慮する場合も考えられる。

※※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。